研究成果報告書 科学研究費助成事業

今和 6 年 6 月 1 4 日現在

機関番号: 82101

研究種目: 基盤研究(C)(一般)

研究期間: 2021~2023

課題番号: 21K12358

研究課題名(和文)環境・まちづくり先進都市に見られる共創的プロセスの記述と後進地域への展開

研究課題名(英文) Description of co-creative process found in advanced cities of environment and community development and its deployment to backward areas

研究代表者

戸川 卓哉 (Togawa, Takuya)

国立研究開発法人国立環境研究所・福島地域協働研究拠点・主任研究員

研究者番号:00595928

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 3.100,000円

研究成果の概要(和文):本研究は,持続可能な地域づくりが実践されている先進地域の知見を他地域に展開するためのプラットフォームの開発とその意義を検証することを目的として実施した.4つの先進事例を対象として,文献調査・インタビュー調査を実施し,地域作りプロセスを描き出した.さらに,課題解決プロセスを抽出しパターン・ランゲージのフォーマットに基づいて記述した.次に,パターンを展開するためのワークショッププログラムを開発し,福島県浜通り地域を対象として適用した.その結果,多くのパターンが適用地域における文紙に応じて具体化して解釈できること,それらを組み合わせることで地域づくりの方向性を議論することが可 能であることが分かった.

研究成果の学術的意義や社会的意義 本研究の学術的意義は,先進事例の分析を通じて持続可能な地域を形成していく上で,様々なステークホルダー との共創的なプロセスの重要性を明確に指摘するとともに,特に課題解決のプロセスについて注目し,具体的な パターンとして抽出したことである バッ・フとので調面のたことである. また,社会的意義はそれらの知見を他地域に展開するためのワークショッププログラムなどのツールを整備し, 先進地域の現場に留まっていた実践知を広く展開するための方法論を整備したことである.

研究成果の概要(英文): This study was conducted with the aim of developing a platform to disseminate the knowledge of advanced regions practicing sustainable community development to other areas, and to verify its effectiveness. Focusing on five advanced cases, we conducted literature reviews and interviews to outline the community-building process. Furthermore, we extracted the problem-solving processes and described them based on the pattern language format. Next, we developed a workshop program to deploy these patterns and applied it to the Hamadori region of Fukushima Prefecture. As a result, we found that many patterns can be concretely interpreted according to the context of the application area, and that combining these patterns allows for discussions on the direction of community development.

研究分野: 地域環境工学

キーワード: パターンランゲージ 持続可能性 地域活性化 災害復興 デザイン設計支援

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等に ついては、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1.研究開始当初の背景

気候変動や人口減少の影響が顕在化する中で,持続可能な地域づくりの必要性が高まっており,そのための計画やシナリオに関する研究が進められている.しかし,社会実装においてトップダウン・プロセスにより個別の施策が決定された場合,実社会との摩擦が生じ,想定通りに進まないケースが多い.一方,地域の構造転換により環境や社会構造と調和した持続可能な地域づくりを実現したグッドプラクティス(環境・まちづくり先進都市)も散見され,その多くは地域社会の多様なステークホルダーによる生成的プロセスに基づいていることが指摘されている.地域づくりにおける生成的プロセスに関する知見は,各現場において関与したステークホルダーの当事者的視点から記憶され共有されている一方,学術的には事例調査の報告が多く,それらの知見を包括的に整理・共有し,他地域の施策につなげていくための手法の開発の視点が必要である.

また,グッドプラクティスの生成的プロセスは地域固有の文脈に依存するためオールインワンのパッケージとして他の地域へ展開しづらい.先進事例における生成的プロセスの包括的な共有・展開手法の開発は,持続可能な地域づくりに向けた重要な課題である.

一方,1970年に参加型まちづくりの手法として提案された「パターン・ランゲージ」という方法論が,近年で他分野に展開し,実践的知見の記述や伝達の方法論として再評価されている.

2.研究の目的

既存の地域づくり先進事例を,パターンランゲージの考え方を援用して分析・記述するとともに,先進事例によって得られた知見の他地域への展開を検討することを通じて,地域づくりにおける生成的デザインの可能性を探る.

3.研究の方法

本研究では,先進事例により得られた知見に基づいて地域づくりを包括的に支援するフレームワークである「共創デザインプラットフォーム」の開発を通じて,持続可能な地域づくりを実現するためのデザインの方法を構成論的に検討する.図-1にその共創デザインプラットフォームの構成を示す.具体的には,下記の3つのステップで構成する.

(1)環境・まちづくり先進都市の調査

環境先進都市・まちづくり先進都市から,対象プロジェクトを選定する.資料・文献調査により地域づくりに関する経緯とステークホルダーを把握した上で,インタビュー調査を 実施し,それをとりまとめた一次資料を作成する.

(2) パタン・ランゲージによる生成プロセスの記述

上記の調査の結果えられた一次資料を分析することで,自治体を始めとした各ステークホルダーの視点からパターンを記述する.本研究では,空間やインフラ整備に関するパターンに加え,政策やコミュニケーションの枠組みなどソフト系のパターンを含め包括的に整理する.

(3)地域展開に向けたデザイン・ワークショップ

記述されたパターンをこれから新たな地域づくりに取り組もうとする地域の地域性に応じて組み上げ,持続可能な地域社会への転換プロセスを試行的にデザインするためのデザイン・ワークショップを実施する.ワークショップの枠組は既往の取り組みを参照しつつ構

築する.これにより,パタン・ランゲージによるデザイン支援枠組みの有効性と限界を明らかにする.

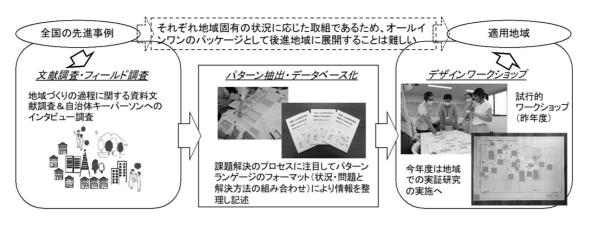


図-1 共創デザインプラットフォームの構成図

4.研究成果

(1) 環境・まちづくり先進都市の調査

本研究では,岩手県紫波町,宮城県女川町,宮崎県日南市,岡山県真庭市を調査対象とした.まず,対象プロジェクトに関する文献・資料調査,及びステークホルダーへの個別インタビューを実施しイベント間の関係性,利害関心などを中心とした実態情報を聞き取り,20年程度の経緯をまとめた年表とステークホルダー相関図を作成した.その上で,文章形式の一次資料としてとりまとめた.それらを通じて,地域において新たな価値が創出される動的なプロセスを包括的に描き出した.

(2) パタン・ランゲージによる生成プロセスの記述

4事例の分析を通じて30のパターンが抽出された.その結果を表-1,2に示す.これらのパターンは,ヒアリング対象者やそれぞれの地域におけるステークホルダーに対してフィードバックを実施して,地域づくりのプロセスのポイントとして実践者の実感に合致したものでることを確認している.

パターンの構造を分析した結果以下の点が明らかになった.第一の特徴は,コミュニティやコミュニケーションに関するパターンや地域主体の育成に関するパターンなど,総合的に地域づくりに取り組むことに関連するものが多いことである.理念や目的,ヴィジョンに関するパターンもあるものの,それらに基づいて地域づくりを直接推進しようとしている訳ではなく,それらを起点としてコミュニケーションの活性化を実現すること等が目的となっている.次に特徴的な点としては,多様なレベルと視点からパターンが抽出されていることである.組織体制整備に関する視点,地域づくりに関する比較的テクニカルなもの,中長期的なヴィジョンや人材育成に関する方向性を示すものなど、多様である.また,地域の特性や特徴といった,詳細なレベルの情報を考慮することが重視されていることも特徴的である.これより,地域づくりの先進事例は、これまで想定されているような中央集約的な計画とその実施という線形のプロセスではなく,循環的・持続的なプロセスとして実現されていることが示唆された.

(3) 地域展開に向けたデザイン・ワークショップ

これからまちづくりを推進する地域(適用地域)の地域特性に応じてパターンを組み上げ, 戦略をデザインするためのワークショッププログラムを開発した.それを,東日本大震災か らの復興まちづくりを進めている福島県における2つの取り組みを対象として適用した.ワークショップの結果,現状の様々な取り組みを踏まえて,徐々に関与する主体を増やしながら,地域を育むという視点で,今後の地域戦略がまとめられた.さらに,一連の流れを可視化した上で,喫緊に取り組むべきポイントを抽出し,ワークショップ参加者間で共有することができた.

表-1 抽出されたパターン1

表-1 抽出されたパターン 1				
名前	状況(コンテクスト)	解決方法(ソリューション)		
01.危機感を共有 して希望を見出す (女,真)	人口減少,少子高齢化,主幹産業の低迷,災害等への不安があるが,漠然とした情報しかなく,人々の意識や行動の変化につながらない.	地域の人が集まり、確かな情報に基づくコミュニケーションを図る・ヴィジョンの構想や具体アクションに向けた基礎的な理解を共有でき、地域づくりの原動力となる・		
02.地域づくりの目 的や理念を明確 にする (日)	取り組む意図が明確でないと,打ち出す方策に 一貫性が出なかったり,ワークショップ等の地域づ くりの手段が目的化してしまったりと,本来の目的 を見失ってしまう.	地域づくりを行う関係者の間で,目的や理念を明確な言葉にしよう.目的は合意形成を図る上での前提やルールとなり,議論が難航した際に常に立ち戻る拠り所となる.		
03.具体的な将来ヴィジョンを描く(紫,女,真)	行政が地域づくりの個別課題に追われていると, それぞれの方向性がバラバラになる可能性がある.また,バラバラに見えるというだけでも住民から 共感されない.	地域の具体的な将来ヴィジョンを描こう. 関係者 や住民など地域で共有できる, ワクワクするような 将来像があることで, ゴールに向けた連帯感や推 進力が生まれる.		
04.小さな成功体 験を重ねる (紫,女,日,真)	将来ヴィジョンと現状の間にギャップがあると,何から着手してよいか分からず前に進めない.具体的なイメージや価値観の共有にもつながらない.	まずは,着手可能な具体的取り組みを進めよう. 小さくとも 1 つずつ実績を重ねて成功体験を得る ことで,地域に共感が広がり,主体的・発展的な 動きにつながっていく.		
05. 萌芽的な活動 を育てる (紫, 女,日)	地域で新たな挑戦をする動きはあるが,それを応援する仕組みがない。また,慣習に囚われて新たなチャレンジがしづらい雰囲気があると,地域が閉塞的になる。	萌芽的な活動を支える行政の施策や,地域で応援する土壌づくりは,地域の活性や新たなチャレンジャーの呼び込みにつながる.		
06.質の高い調査 研究を取り入れる (紫,真)	通り一辺倒の基礎調査や,伝聞や仮説に基づいた地域戦略は,オリジナリティが欠如したり,実現性に乏しく"絵に描いた餅"になったりする.	大学,研究機関,専門家等の協力を得て,客観性や時流を踏まえた地域戦略が構築できる.研究者との継続的な関係を築くことで情報をアップデートできる.		
07. 先進的な取り 組みを視察する (紫,女)	新しい地域づくりに取り組む上で、行政内や関係者の知識には限りがあり、会議室での議論や資料を閲覧するだけでは生きた情報を得られず、理解が不十分になる。	先進地域の取り組みを視察し,視野を広げたり教訓を得たりすることは,参加者の価値観の変容や意識統一につながり,自地域での具体的な議論にも役立つ.		
08.専門家の知見 を得る (紫,女,日,真)	地域における関係者だけでの議論では、得られる アイデアには限界があり、プレイクスルーが起こり にくい、限られた情報や知識の下では、客観的な 判断ができない、	専門家の経験に基づくノウハウや、俯瞰的視点からのアドバイスは地域からの合意も得やすく、固定概念に変化をもたらす創造的な解決策につながる.		
09.地域の特性を 活かす (紫,日,真)	地域の強みがぼやけていて,何をテーマに新たな価値創造につなげるべきか分からない.その結果,他地域との差別化につながらず,地域づくりの効果が小さい.	地域の資源や個性を見極め,計画に反映させて地域づくりに活かそう.身近な地域特性が活かせれば,地域の注目度が高まる.		
10.アップサイクル の考え方を取り入 れる (真)	主幹産業の低迷,人口減少,地域文化の衰退等,以前とは異なる環境・状況が,地域に行き詰まり感を与えている.時代や社会情勢を踏まえた再解釈が必要である.	地域にある身近なもので,見向きもされていなかったり,現状では捨てられていたりするものに新たな価値を与えて再生していくことは,循環型社会への一歩となる。		
11.地域のマーケティング戦略を持つ (日)	従来の行政は、民間企業のようなマーケティング 感覚が乏しく、ニーズのないピントのずれた施策と なり、結果につながっていない。	マーケティング戦略を組み立てることで、呼び込みたい人、企業、コンテンツを効果的に引き寄せられる。		
12.組織の枠や立場を超える意識を持つ(女,日,真)	行政と民間,あるいは民間同士の共創の意識が低いと,お互いの取り組みに対して受動的となり,地域全体でできる取り組みも限られ好循環も生まれない.	組織の枠や立場を超える意識を持つことが信頼 関係の構築につながる.その結果,それぞれの得 意分野を意識した上で,連携した地域づくりに取り組める.		
13.地域を巻き込む (紫,女,日)	行政や専門家の議論だけでは、地域の実状に合った提案は難しい、地域住民やステークホルダーが当事者意識を持てない。	賛同してくれる人を巻き込み,サステイナブルな枠組みを整えていこう.地域にしかない情報や地域の自主性を引き出すことで,地域づくりへの連帯感が生まれる。		
14.コミュニケーションの場をつくる (紫,女,真)	地域づくりに意欲のある企業や団体等が存在していても、収集できる情報やネットワークに限界があり、発展的・共創的な動きが生まれない.	行政やステークホルダーが対等な関係を構築できる,共創につながるコミュニケーションの場をつくろう.基礎認識を共有することで効率的な地域づくりが可能となる.		

表-2 抽出されたパターン2

15.ボリティカルリ 地域社会は多様であるため、新しい取り組みに対しては解集や抵抗が発生しやすく、それがヴィ		衣-2 抽山されたハダ	
プランに対する大きな揺り戻しのうねりに発展する こともある。 16.新たな参画者 上地域をつなぐ (日) かにないたり、様々な取り組みに関して、ベランからの世代が連続できないたり、様々な取り組みに関して、ベランからの世代交代が進んでいなかったり、様々な取り組みに関して、ベランからの世代交代が進んでいなかったり、様々な取り組みに関して、ベランからの世代交代が進んでいなかったり、表し地域の良きを伝え、関心を引き出す。 18.子供や著書に地域の良きを知るいた、と地域に戻る (日) やが一般ない音楽を振っているかか、取り組みを知る 人が一部に限され、地域内外に認知されていなが、取り組みを知る 人が一部に限され、地域内外に認知されていたが、数では、子どものころに地域の良きを知るいた、地域に戻る 気持ち洗がない。人が一部に限され、地域内外に認知されていた。をもたらが、取り組みを知る 人が一部に限され、地域内外に認知されていた 人が一部に限され、地域内外に認知されていた 人が一部に限され、地域内外に認知されていた 人が一部に限され、地域内外に認知されていた 人が一部に限され、地域内外に認知されていた 人が一部に限され、地域内外に認知されていた 人が一部に限され、地域内外に認知されていた 人が一部に限され、地域内外に認知されていた は、地域づて)ののがジシンを可のはのかが中のだせない。 19.物語を発信す 地域づく)の初動期には、明確な目的やヴィジュンを表した。 地域づく)ののがジシンを示す は地域づく)のがジンシや取り組みが、庁内で正に 地域づく)のがジンシや取り組みが、庁内で正しい、 地域づく)のがジシンを目々の言動で (女人) 地域づく)のがジシンを目々の言動で (女人) 地域づく)のがジシンを目々の言動で (女人) 地域づく)のがジシンを目々の言動で (女人) 地域づく)のがジシンを目々の言動で (女人) 地域づく)のがジシンを目々の言動で (教人) がかがからなかなかなかなかなかなかなかながながながながながながながながながながな	名前	状況(コンテクスト)	解決方法(ソリューション)
プランドウオースを充実させよう。 対しては摩摩や抵抗が発生しやすく、それがヴィ する等、合意形成のプロセスを充実させよう。 ジョンに対する大きな揺り戻しのうねりに発展する こともある。 新たなプレイヤーの参画は、地域生民等に懐疑 いた生じさせつずい、地域との信頼関係が構築 できなければ、プレイヤーの役割が発揮されず 地域に定着しない。	15.ポリティカルリ	地域社会は多様であるため、新しい取り組みに	議員等へも地域づくりの基礎清報を丁寧に共有
(紫) ジョンに対する大きな揺り戻しのうねりに発展する こともある。 おたなプレイヤーの参画は、地域住民等に懐疑 かを生じさせやすい、地域との信頼関係が構築 できなければ、プレイヤーの参画は、地域住民等に懐疑 かを生じさせやすい、地域との信頼関係が構築 できなければ、プレイヤーの役割が発揮されず 地域に定着しない。 若い世代が地域のこれからを自分事として捉えら 育成する おたいなかったり、様々な取り組みに関して、グランからの世代交代が進んでいなかったり 様を、大学がない等の理由から、子どもたちが大きく と地元を離れてしまうケースも少なくない、子ど 関かを管す として変えら 気持ちも沸かない。 大学がない等の理由から、子どもたちが大きくな ると地元を離れてしまうケースも少なくない、子ど 地域の民さを伝え (男) 地域づりを持続的に進めるためには、り広い 人々からの協力が必要であるが、取り組みを知る (紫、女・月・真) 地域づりの初勤期には、明確な目的やヴィジョンを示す ソガ見えづら、関係者がななか作びせない、 20.首長のヴィジョンが見えづら、関係者がななか作びさせない、 21.1 世域づりの初がよりなかでだせない と地域づりの初が多さと同時に、ジタを病を得る (日) 地域づりの初がななか作びさせない、 22.目的に合わせ (日) 地域づりの初がななか作りたせない。 23.エージェントを (紫、女・月・真) 「技術が取りにくい、さらに地域のとの一貫した対話 が難しい。 23.エージェントを (紫、女・月・真) 「技術が取りにくい、さらに地域との一貫した対話 が難しい。 23.エージェントを (紫、女・月・真) 間かなかなかが作びさない (現場がおりなが多れが増った体制を見直す (紫、女・月・真) 間がまり、 24.継続的な活動 (紫、日・南) できるよがならなかにりに、 32.エージェントを 第一時的な取り組みに終わってしまう可能性が 点が増しれば、一時的な取り組みに終わってしまう可能性が 高い。 第一時のな取り組みに終わってしまう可能性が 高い、 第一日のな取り組みに終わってしまう可能性が 高い。 第四段 (大田の は、一時的な取り組みに終わってしまう可能性が 高い。 第四段 (大田の は、一時的な取り組みに終わってしまう可能性が 高い (大田の は 一時のな取り組みに終わってしまう可能性が 高い (大田の は 一時のな取り組みに終わってしまう可能性が 高い (大田の は 1 一時のな取り組みに終わってしまう可能性が 高い (大田の は 1 一時のな取り組みに終わってしまう可能性が 高い (大田の は 1 一時のな取り組みに終わってしまう可能性が 高い (大田の は 25.身の文にして、 25.女に、 25.女に			
こともある。 新たなが画者と地域をつなく (日) かた生じさせやすい、地域との信頼関係が構築できなければ、ブレイヤーの参画は、地域住民等に懐疑地域のの信頼がある行政等が先導して地域できなければ、ブレイヤーの役割が発揮されず地域に定着しない、グラシからの世代交代が進んでいなかったりする。 17.次世代人材を育成する (女) からの信頼がある行政等が先導して地域の農をを伝え、関心を引き出す。 大学がない等の理由から、子どもたちが大きくなお地域の足を伝え、関心を引き出す。 大学がない等の理由から、子どもたちが大きくな おと地元を離れてしまうケースも少なくない、子どものころに地域の良きを知らないと、地域に戻る気持た沸かない。 19.物語を発信する (紫、女 日、真) がり見えづら、関係者が同じ方向を向いて動き、対域内での認識が普及すると同時に、い、クッかの協力が必要であるが、取り組みを知ら、人々からの協力が必要であるが、取り組みを知ら、人々からの協力が必要であるが、取り組みを知ら、人々が見えづら、関係者が同じ方向を向いて動き、地域づくりの秘護や直及すると同時に、いた。 「安川ので正しい 地域づくりの初動期には、明確な目的やづくジョンが見えづら、関係者が同じ方向を向いて動き、対し、地域づくりのがジョンや取り組みが、庁内で正確に理解されていながからなりので、アラッか取り組みが、庁内で正確に理解されてあらず、関係部局にあける横のほり、地域づくりのがジョンを取り組みに対する職員に関係が取りにくい、さらに地域との一貫した対話が難らいのがジョンを取り組みに対する職員のほ理解を促すこととで、行政の持つ力を最大限できるよる基盤組織に、別で自定できる仕組みをつくらなけいに、成果につながりにくい、 成果につながりにくい、成果につながりにくい、成果につながりにくい、成果につながりにくい、成果につながりにくい、成果におして、小部に関係が取り出めた対す。 (素、女、日、男が成り組みには対するに関係が取りまたのない)に、対すを表しるが明らない地域で自定できる仕組みをつくらなければ、中等的な事象に対応しようとすると、時間がかか、リッぎたり、職員にストレスがかかりすぎたりして、成果の事業は期間が定まっているため、事業期間中に、地域で自定できる仕組みをつくらなければ、中等的な取り組みを対すであるとのが可能となる。 (女) の事業は期間が定まっているため、事業期間中に、地域で自定できる仕組みをつくらなければ、一時的な取り組みに終わってしまった。 (女) のまの事業は取り組みを効率的・持続的に推定といる。 (女) の事業は期間が定まっているため、事業のとなも、協働に対する人が可能となる。 の情様や、二人の事業は関係において、外部提案に任せすぎた計画の推進を表し、分別の事業は関係において、外部提案を対しが対し、対したも対し、は、対したいの事業となる、対したいの事をとする人が可能となる。 の様様や 二人に見きがないない、 別の地をでの計画のも考える。 (女) の地をも返をの計画を考える。 (女) の地をも返をの計画を考える。 例となってしま、 他等をも返すが難している等、本を観音がないが関係としているのもでは、は、は、対したいのでは、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	–		
16.新たな参画者 と地域をつなく (日) 地域との信頼関係情報 できなければ、ブレイヤーの後割が発揮されず 地域に定着しない。 地域に定着しない。	(31)		The state of the s
できなければ、プレイヤーの役割が発揮されず つかながりを仲介しよう。新たな参画者と地域	16 新たな参画者		新たな参画者もスムーズに地域に入れるよう 地
(日) できなければ、プレイヤーの役割が発揮されず でながりを仲介しよう。新たな参画者と地域 類の構築に繋がる。			
地域に定着しない。			
17. 次世代人材を 育成する	(Ц)		
育成する (女) 18.子供や若名に 地域の良さを伝え 関心を引き出す (日) 19.物語を発信す (日) 19.物語を発信す (人) からの方のでしているかったりする。 (大学がない等の理由から、子どもたちが大きくな ると地元を離れてしまうケースも少なくない、子ど (日) 19.物語を発信す (人) からの協力が必要であるが、取り組みを知っている。 (紫、女、日、真) 地域づくりのを持続的に進めるためには、より広い (大学のもの協力が必要であるが、取り組みを引き、 (大学のもの協力が必要であるが、取り組みを到まない。 (大学のないがでいいく、 (大学のもの協力が必要であるが、取り組みを到まない。 (大学のものようが必要であるが、取り組みを到まない。 (大学のでは、 (大学のもの場力が必要であるが、取り組みを到まない。 (大学のでは、 (大学のものものが必要であるが、取り組みを到まない。 (大学のでは、 (大学のもの協力が必要であるが、取り組みを到まない。 (大学のでは、 (大学のもの協力が必要であるが、取り組みを到まない。 (大学のでは、 (大学のもの協力が必要であるが、取り組みを対象である。 (大学のでは、 (大学のないは、	47 \\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	•	
(安) テランからの世代交代が進んでいなかったりする。 大学がない等の理由から、子どもたちが大きくな おと地元を離れてしまうケースも少なくない、子どものころに地域の良さを伝え 関心を引き出す 気持ちも沸かない。 地域づくりの経緯や成果を物語として発信 人々からの協力が必要であるが、取り組みを知る 人が一部に限られ、地域内外に認知されていない。 会観的評価を得ることは、地域づくりの初識別には、明確な目的やヴィジョンが見えづらく、関係者が同し方向を向いて動き (女, 日) 地域づくりの初動期には、明確な目的やヴィジョンが見えづらく、関係者が同し方向を向いて動き (女, 日) 地域づくりの初動期には、明確な目的やヴィジョンが見えづらく、関係者が同し方向を向いて動き (女, 日) 地域づくりの初動期には、明確な目的やヴィジョンが見えづらく、関係者が同し方向を向いて動き (女, 日) 地域づくりのがマジョンか見えづらく、関係者が同し方向を向いて動き (女, 日) 地域づくりのヴィジョンが見えづらく、関係者が同し方向を向いて動き (女, 日) 地域づくりのヴィジョンや取り組みが、庁内で正確に理解されておらず、関係部局における境の 遺様が取りにくい、さらに地域との一貫した対話が難しい。 アウス・別点のようが最大に取りがなか作りだせない。 境が取りにくい、さらに地域との一貫した対話が難しい。 できるようになる。今の体制に縛られず、地域づくりがなムーズに進まない、 関係の体制を削堤に議論を進めていると、地域 できるようになる。 今の体制に縛られず、自的を達成するため 関係ないが高く、専門的な事業は期間が定まっているため、事業期間中に、地域で自走できる仕組みをつくらなければ、一時的な取り組みに終わってしまう可能性が高い、 対策に対応しようとすると、時間がかかりすぎたり、職員にストレスがかかりずぎたりして、 成果につながりにくい、 第一門的な知識・経験のあるエントを、事業の推進役として外部から取り、活用しよう、取り組みを効率的・持続的に推定入る(国) では近いに、地域で自走できる仕組みをつくらなければ、一時的な取り組みに終わってしまう可能性が高い、 でまるる資金の確保や人材育成の仕組みを入る(国) を表していて、地域では、大きないが違い現れたで話ともい、 第一般を推定のが違いが違いなの情報では、 は続わな地域づくりたしていくために、 26、身の文にあった計画や事業スキームを考えよう、 対域全体で中 横り段でする (紫、女、日) の作性が、 対域の内容と事業単収支のパランスが取れた ジェクトは、説得力が増し現実性が高まる、 収り組み内容と事業収支のパランスが取れた ジェクトは 説得力が増し現実性が高まる。 関いなってしまう。 アルドにはているに、 ではずいないではない、地域では、 説得力が増し現実性が高まる、 ないが先行しす 事業推進において、 やりになく、 なる等、本末転倒になってしまう。 「現り組み内容と事業収支のパランスが取れた ジェクトは、説得力が増し現実性が高まる、 ないが発行しているの計画と合わせて議論しよ。 地域を全体で中 核プロジェクトだけではなく、 地域全体の や と地区の計画と合わせて議論しよ。 地域のよりにないないないないないないないないないないないないないないないないないないない			
る。大学がない等の理由から、子どもたちが大きくな 将来、まちを担っていく子どもたちを、地域の良さを伝え 関心を引き出す (日) 特別語を発信す			
18.子供や著者に 地域の良さを伝え	(女)		
世域の良さを伝え 関心を引き出す (日) ちょうと ものころに地域の良さを知らないと、地域に戻る (別) を引き出す (別) が調節を発信す る (紫、女、日、真) い 人々からの協力が必要であるが、取り組みを知る (紫、女、日、真) い 地域づくりを持続的に進めるためには、より広い 人々からの協力が必要であるが、取り組みを知る (紫、女、日、真) い 地域づくりの初動期には、明確な目的やヴィジョンが見えづらく、関係者が同じ方向を向いて動き (女、日) 地域づくりの初動期には、明確な目的やヴィジョンが見えづらく、関係者が同じ方向を向いて動き (女、日) 地域づくりの初動期には、明確な目的やヴィジョンが見えづらく、関係者が同じ方向を向いて動き (女、日) 地域づくりのがメジョンや取り組みが、庁内で正確に理解されておらず、関係部局における横の (日) 地域づくりのグメジョンや取り組みが、庁内で正確に理解されておらず、関係部局における横の (日) 既存の体制を前提に議論を進めていると、地域 住民やステークホルダーとの対話において一質 性が生まれず、地域づくりがスムーズに進まな い (紫、女、日、真) い (表) に表) ときるとは、独域の自合で (表) い できるようになら で (表) がないながりにくい、さらに地域との一貫した対話が難しい。 23.エージェントを (方政内部で、不得意分野の新しい課題や高度に 専門的な事象に対応しようとすると、時間がかか (紫、日) できたり、職員にストレスがかかりずぎたりして、成果につながりにくい、成果につながりにくい、成果につながりにくい。		*	
関心を引き出す (日)			
(日) 気持ちも沸かない。 をもたらす。 地域で(りを持続的に進めるためには、より広い もくからの協力が必要であるが、取り組みを知る (紫、女、日、真) ・ 地域で(りのをはからに関られ、地域内外に認知されていない。 い、			
19.物語を発信する 地域づくりを持続的に進めるためには、より広い			
○ 大クからの協力が必要であるが、取り組みを知る人が一部に限られ、地域内外に認知されていない。	(,		
(紫、女,日,真) 人が一部に限られ、地域内外に認知されていない。	19.物語を発信す	地域づくりを持続的に進めるためには、より広い	
い。 を離成につながっていく。 20.首長のヴィジョ	_		う。地域内での認識が普及すると同時に、対外
20.首長のヴィジョ	(紫, 女,日,真)	人が一部に限られ、地域内外に認知されていな	的・客観的評価を得ることは、地域の自信や誇り
フを示す (女,日) 出す雰囲気や推進力がなかなか作りだせない。			
(女,日) 出す雰囲気や推進力がなかなか作りだせない。 続けよう。信頼をもたらし地域を一つにしてい 地域づくりのヴィジョンや取り組みが、庁内で正 確に理解されておらず、関係部局における横の 連携が取りにくい。さらに地域との一貫した対話 が難しい。 できょうになる。 既存の体制を前提に議論を進めていると、地域 住民やステークホルダーとの対話において一貫 性が生まれず、地域づくりがスムーズに進まない。 「大政内部で、不得意分野の新しい課題や高度に 専門的な事象に対応しようとすると、時間がかかりすぎたり、職員にストレスがかかりすぎたりして、成果につながにくい。 イ	20.首長のヴィジョ	地域づくりの初動期には、明確な目的やヴィジョ	影響力のある首長が、行政職員・住民・関係者に
21.庁内で正しい 地域づくりのヴィジョンや取り組みが、庁内で正確に理解を得る (日) 連携が取りにくい。さらに地域との一貫した対話が難しい。 理解を促すことで、行政の持つ力を最大限できるようになる。	ンを示す	ンが見えづらく、関係者が同じ方向を向いて動き	対し、地域づくりのヴィジョンを日々の言動で示し
21.庁内で正しい 地域づくりのヴィジョンや取り組みが、庁内で正確に理解を得る(日) 連携が取りにくい。さらに地域との一貫した対話が赴い。 理解を保すことで、行政の持つ力を最大限できるようになる。	(女,日)	出す雰囲気や推進力がなかなか作りだせない。	続けよう。信頼をもたらし地域を一つにしていく。
理解を得る (日)			庁内において丁寧な情報共有を行い、共通認識
(日) 連携が取りにくい。さらに地域との一貫した対話 できるようになる。 22.目的に合わせて体制を見直す (紫, 女, 日, 真) 性が生まれず、地域づくりがスムーズに進まない。 実際の体制を前提に議論を進めていると、地域 中が生まれず、地域づくりがスムーズに進まない。 実際の体制に縛られず、目的を達成するため、 要な人材が揃った体制を整えよう。議論が共れ、相互の事業の整合性、協働による効率のメリットが得られる。 (紫, 日) りすぎたり、職員にストレスがかかりすぎたりして、 成果につながりにくい。 で取り事業は期間が定まっているため、事業期を支える基盤組織をつくる(日) にかり、地域で自走できる仕組みをつくらなければ、一時的な取り組みに終わってしまう可能性が高い。 に計画を考える (女) 施設整備において、外部提案に任せすぎた計画 た計画を考える (女) が開きたい、 関係とおいて、 は、 一時的な取り組みに終わってしまう可能性が高い。 では、 一時的な取り組みに終わってしまう可能性が高い。 では、 一時的な取り組みに終わってしまう可能性が高い。 では、 一時的な取り組みに終わってしまう可能性が高いでは、 一時的な取り組みに終わってしまう可能性が高いでは、 一時的な取り組みに終わてしまうで可能性が高いでは、 一部の地区への集中的な投資は、 その他の地区を含える。 第業推進において、 やりたいこと(志)が先行しすを含ると、 資金調達や返済が難しくなる等、本末転倒になってしまう。 「対していくために、 を付まると、 資金調達や返済が難しくなる等、本末転倒になってしまう。 「中核プロジェクトだけではなく、地域全体のや格ブロジェクトをも地区の計画と合わせて議論しよう。地様を生み出しかねない。 中核プロジェクトだけではなく、地域全体のや各地区の計画と合わせて議論しよう。地様を生み出しかねない。			を得よう。新たな取り組みに対する職員の正しい
 が難しい。 22.目的に合わせて体制を見直す(策,女,日,真) (紫,女,日,真) (芸,女,日,真) (大)の内ので、不得意分野の新しい課題や高度に活用する(紫,日) (大)の事業に対応しようとすると、時間がかかりすぎたり、職員にストレスがかかりすぎたりして、成果につながりにくい。 24.継続的な活動を支える基盤組織をつくる(日) (大)の事業は期間が定まっているため、事業期を支える基盤組織をつくる(日) (大)の事業に対応しよらとすると、時間がかから取り、活用しよう。取り組みを効率的・持続的に推定を支える基盤組織をつくる(日) (大)の事業は期間が定まっているため、事業期間中に、地域で自走できる仕組みをつくらなければ、一時的な取り組みに終わってしまう可能性が高い。 (大)の事業に対応した終わってしまう可能性が高い。 (大)の事業に対応した終わってしまう可能性が高い。 (大)の事業は期間が定まっているため、事業期間中に、地域で自走できる仕組みをつくらなければ、一時的な取り組みに終わってしまう可能性が高い。 (大)の推進や、ニーズに見合わない過剰な開発は、運営段階において、外部提案に任せすぎた計画の推進や、ニーズに見合わない過剰な開発は、運営段階において負担を増長させ、求めていた効果を引き出せない。 (女) 26.志を実現する算段をする(紫,女,日) 27.地域全体で中核プロジェクトを考えるの地区への集中的な投資は、その他の地区における不公平感や疑念を生じざせ、さまざまなれずのみみり果を示すことで多くの市民が各地区の計画と合わせて議論しよう。地への波及効果を示すことで多くの市民が各地区の計画と合わせて議論しよう。地への波及効果を示すことで多くの市民が各地区の計画と合わせて議論しよう。地への波及効果を示すことで多くの市民が特別が関いませない。 			
22.目的に合わせ	(1)		
(紫, 女, 日, 真) 住民やステークホルダーとの対話において一貫 性が生まれず、地域づくりがスムーズに進まない。 (ま) ところ、不得意分野の新しい課題や高度に 専門的な事象に対応しようとすると、時間がかかい りずぎたり、職員にストレスがかかりすぎたりして、 成果につながりにくい。	22 日的に合わせ	15.50	
(紫, 女,日,真) 性が生まれず、地域づくりがスムーズに進まない。			
い。 のメリットが得られる。 のメリットが得られる。 で取内部で、不得意分野の新しい課題や高度に 専門的な事象に対応しようとすると、時間がかか りすぎたり、職員にストレスがかかりすぎたりして、 成果につながりにくい。 活用しよう。取り組みを効率的・持続的に推 きる。 で取の事業は期間が定まっているため、事業期 間中に、地域で自走できる仕組みをつくらなけれ は、一時的な取り組みに終わってしまう可能性が 高い。 施設整備において、外部提案に任せすぎた計画 の推進や、ニーズに見合わない過剰な開発は、運営段階において負担を増長させ、求めていた 効果を引き出せない。 事業推進において、やりたいこと(志)が先行しす でると、資金調達や返済が難しくなる等、本末転 質になってしまう。 取り組み内容と事業収支のバランスが取れた ジェクトは、説得力が増し現実性が高まる。 (紫、女、日) 27.地域全体で中 核プロジェクトを考 える 単礫を生み出しかねない。 中核プロジェクトを考 える 単礫を生み出しかねない。 中核プロジェクトだけではなく、地域全体の や名地区の計画と合わせて議論しよう。地			
23.エージェントを 行政内部で、不得意分野の新しい課題や高度に 専門的な事象に対応しようとすると、時間がかか りすぎたり、職員にストレスがかかりすぎたりして、 成果につながりにくい。	(於,又,口,共)		
下の地域の	22 エージェントな	· ·	
(紫,日) りすぎたり、職員にストレスがかかりすぎたりして、成果につながりにくい。 活用しよう。取り組みを効率的・持続的に推きる。 24.継続的な活動を支える基盤組織をつくる(日) 行政の事業は期間が定まっているため、事業期間やに、地域で自走できる仕組みをつくらなければ、一時的な取り組みに終わってしまう可能性が高い。 継続的な地域づくりに向けた基盤をつくるのでは、大きえる資金の確保や人材育成の仕組みることで、長期的視野に基づく地域マネジが可能となる。 25.身の丈にあった計画を考えるの推進や、ニーズに見合わない過剰な開発は、運営段階において負担を増長させ、求めていた効果を引き出せない。 持続可能な地域づくりをしていくために、それはまう人が皆で話し合い、身にあった計画や事業スキームを考えよう。 26.志を実現する質段をするの集まはこれて、やりたいこと(志)が先行しすぎると、資金調達や返済が難しくなる等、本末転質的をするのである。 取り組み内容と事業収支のバランスが取れたジェクトは、説得力が増し現実性が高まる。 27.地域全体で中核プロジェクトを考えるの集中的な投資は、その他の地区における不公平感や疑念を生じざせ、さまざまな、単礫を生み出しかねない。 中核プロジェクトだけではなく、地域全体の対色地区の計画と合わせて議論しよう。地域を生み出しかねない。			
成果につながりにくい。 きる。 24.継続的な活動 行政の事業は期間が定まっているため、事業期 継続的な地域づくりに向けた基盤をつくるうちを支える基盤組織 間中に、地域で自走できる仕組みをつくらなけれ ば、一時的な取り組みに終わってしまう可能性が 高い。 25.身の丈にあった計画を考える 施設整備において、外部提案に任せすぎた計画 方統可能となる。 持続可能な地域づくりをしていくために、そ 位まう人や商いをする人が皆で話し合い、身にあった計画や事業スキームを考えよう。 効果を引き出せない。 取り組み内容と事業収支のバランスが取れた ジェクトは、説得力が増し現実性が高まる。 (紫,女,日) 27.地域全体で中 で成づりまりといるの集中的な投資は、その他の地区 における不公平感や疑念を生じざせ、さまざまな 東礫を生み出しかねない。 本の波及効果を示すことで多くの市民が 本の波及効果を示すことで多くの市民が 本の波及効果を示すことで多くの市民が 24.継続的な地域づくりに向けた基盤をつくるの 本を支える資金の確保や人材育成の仕組み えることで、長期的視野に基づく地域マネジが が可能となる。 住まう人や商いをする人が皆で話し合い、身にあった計画や事業スキームを考えよう。 取り組み内容と事業収支のバランスが取れた ジェクトは、説得力が増し現実性が高まる。 中核プロジェクトだけではなく、地域全体ので や各地区の計画と合わせて議論しよう。地は 本の波及効果を示すことで多くの市民が 大田では			
24.継続的な活動 行政の事業は期間が定まっているため、事業期 継続的な地域づくりに向けた基盤をつくるを支える基盤組織 間中に、地域で自走できる仕組みをつくらなけれ ば、一時的な取り組みに終わってしまう可能性が 高い。 この推進や、ニーズに見合わない過剰な開発は、	(系,日)		
を支える基盤組織 間中に、地域で自走できる仕組みをつくらなけれ ば、一時的な取り組みに終わってしまう可能性が 高い。 だいで見たである。 だいで可能となる。 だいで可能となる。 だいで可能となる。 だいで可能となる。 だいで可能となる。 だいで可能となる。 だいで可能となる。 だいでではないにではない。 では、一部の地では、一部の地では、その他の地では、一部の地では、一部の地では、その他の地では、一部の地では、一部の地では、一部の地では、その他の地では、一部の地では、一部の地では、一部の地では、その他の地では、その他の地では、一部の地では、一部の地では、一部の地では、その他の地では、その他の地では、これでは、一部の地では、一部の地では、その他の地では、一部の地では、一部の地では、一部の地では、その他の地では、一部の地では、一部の地では、一部の地では、その他の地では、一部の地では、一部の地では、一部の地では、その他の地では、一部の地では、一部の地では、一部の地では、一部の地では、その他の地では、一部の地では、一部の地では、地域全体のでは、大きには、これでは、地域を体が、一部の地では、地域を体が、一部の地では、地域を体が、一部の地では、地域を体が、一部の地では、地域を体が、では、地域を体が、では、ない。 本への波及効果を示すことで多くの市民がは、からは、地域をは、地域を体が、 でも地では、地域を体が、 地域をは、 地域は、 地域は、 は、 地域は、 地域は、 は、 は	0.4		
をつくる(日) ば、一時的な取り組みに終わってしまう可能性が 高い。 だきしまった計画を考える が可能となる。 だきとで、長期的視野に基づく地域マネジが可能となる。 が可能となる。 だきしまった計画を考える の推進や、ニーズに見合わない過剰な開発は、 連営段階において負担を増長させ、求めていた 効果を引き出せない。 ないます。 事業推進において、やりたいこと(志)が先行しす ぎると、資金調達や返済が難しくなる等、本末転 (紫,女,日) ではなってしまう。 ではなってしまう。 ではなってしまう。 ではなってしまう。 ではなってしまう。 ではなっていまう。 ではなっていまっていまっていまっていまっていまっていまっていまっていまっていまっていま			
高い。 が可能となる。 25.身の丈にあっ 施設整備において、外部提案に任せすぎた計画 持続可能な地域づくりをしていくために、そ 住まう人や商いをする人が皆で話し合い、身 運営段階において負担を増長させ、求めていた 効果を引き出せない。			
25.身の丈にあった計画を考える	をつくる(日)		
た計画を考える の推進や、ニーズに見合わない過剰な開発は、			
(女) 運営段階において負担を増長させ、求めていた 効果を引き出せない。 にあった計画や事業スキームを考えよう。 26.志を実現する 算段をする (紫,女,日) 事業推進において、やりたいこと(志)が先行しす ぎると、資金調達や返済が難しくなる等、本末転 (紫,女,日) 取り組み内容と事業収支のバランスが取れた ジェクトは、説得力が増し現実性が高まる。 27.地域全体で中 核プロジェクトを考 える 一部の地区への集中的な投資は、その他の地区 における不公平感や疑念を生じざせ、さまざまな 東礫を生み出しかねない。 中核プロジェクトだけではなく、地域全体の や各地区の計画と合わせて議論しよう。地 体への波及効果を示すことで多くの市民が			持続可能な地域づくりをしていくために、そこに
対果を引き出せない。 26.志を実現する 事業推進において、やりたいこと(志)が先行しす 取り組み内容と事業収支のバランスが取れた			住まう人や商いをする人が皆で話し合い、身の丈
26.志を実現する	(女)		にあった計画や事業スキームを考えよう。
算段をする ぎると、資金調達や返済が難しくなる等、本末転 ジェクトは、説得力が増し現実性が高まる。 (紫, 女,日) 倒になってしまう。			
(紫,女,日)倒になってしまう。27.地域全体で中 核プロジェクトを考 える一部の地区への集中的な投資は、その他の地区 における不公平感や疑念を生じざせ、さまざまな 車礫を生み出しかねない。中核プロジェクトだけではなく、地域全体の や各地区の計画と合わせて議論しよう。地域 体への波及効果を示すことで多くの市民が		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	取り組み内容と事業収支のバランスが取れたプロ
27.地域全体で中		ぎると、資金調達や返済が難しくなる等、本末転	ジェクトは、説得力が増し現実性が高まる。
核プロジェクトを考 における不公平感や疑念を生じざせ、さまざまな や各地区の計画と合わせて議論しよう。地:	(紫,女,日)	倒になってしまう。	
核プロジェクトを考 における不公平感や疑念を生じざせ、さまざまな や各地区の計画と合わせて議論しよう。地:	27.地域全体で中	一部の地区への集中的な投資は、その他の地区	中核プロジェクトだけではなく、地域全体の方針
える 車礫を生み出しかねない。 体への波及効果を示すことで多くの市民か	核プロジェクトを考		や各地区の計画と合わせて議論しよう。地域全
	える		体への波及効果を示すことで多くの市民からの
		地区整備において、着手の順が無計画である	事業の効果を最大限引き出すために、段階的整
			備のシナリオを考えよう。例えば、関心が向きや
			すい施設から始めることで、地域の理解や共感を
(京、文・日・英) たら、心を交付に対する別別が完工する。 すい他のから知めることに、心域の理解に大	(X) A H X	CONTRACTOR OF STREET	
	29 十地の所有と	多くの地方都市の商業地では 一般的に土地の	土地の所有と利用を分けて、商業地全体のテナ
			工地の所有と利用を対けて、商業地主体のデナーント運営を行う仕組みがあれば、空き店舗ができ
	(×)		ても、効率的に新たなテナントを誘致することが
等を生み出している。 できる。 できる。	00 = 45 / > - 5 44		
			施設整備において、デザインの共通項を意識し
			よう。地場産の素材の活用や地域の歴史文化を
	(日)	性も計画時から意識しないと生まれない。	活かしたデザインは、伝わりやすい物語として発
信することにつながる。			信することにつながる。

5 . 主な発表論文等

「雑誌論文】 計1件(うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件)

4 . 巻
78
5.発行年
1 2022年
6.最初と最後の頁
II_491 ~ II_508
査読の有無
有
国際共著
-

〔学会発表〕 計4件(うち招待講演 0件/うち国際学会 1件)

1.発表者名

Takuya TOGAWA, Satoshi OHNISHI, Hideya FUKUSHIMA, Ryoko GOTOH and Yasuko GOMI

2 . 発表標題

Development of co-creative processes found in environmentally or developmentally advanced cities using pattern language

3 . 学会等名

30TH CONFERENCE ON PATTERN LANGUAGES OF PROGRAMS (国際学会)

4.発表年

2023年

1.発表者名

松岡俊二,戸川卓哉,辻岳史,島田剛,木全洋一郎,工藤尚悟,中村勝則

2 . 発表標題

人口減少社会と地域社会の持続性: 知識創造の社会的仕組みを考える

3 . 学会等名

国際開発学会第24回春季大会

4.発表年

2023年

1.発表者名

松岡俊二,木全洋一郎,辻岳史,島田剛,戸川卓哉,中村勝則,工藤尚悟

2 . 発表標題

人口減少社会における創造的復興とは何か?

3.学会等名

国際開発学会第34回全国大会

4 . 発表年

2023年

1.発表者名 戸川卓哉
2 . 発表標題
環境・まちづくりの先進都市に見られる共創的プロセスの記述と展開
3.学会等名
第7回創造的復興研究会
4.発表年
2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6.研究組織

_ 6	· 研究組織		
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
	福島 秀哉	東京大学・大学院工学系研究科(工学部)・助教	
研究分担者			
	(30588314)	(12601)	
	大西 悟	国立研究開発法人国立環境研究所・福島地域協働研究拠点・ 主任研究員	
研究分担者	(Ohnishi Satoshi)		
	(80714211)	(82101)	

7 . 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------